

地区広報

すいざわ

平成17年 3月

No. 50 号

西條町 6年 安藤 知美さん

世代を超えた育ちの姿を求めて

心が通い合う地域づくり 小さな輪をより大きな輪に！



地域の茶の間作りに取り組みました
開かれた空間で、子どもから高齢者まで集まっての交流
世代を問わず、お互いに刺激を与えられる活動

自然豊かな水沢の地を生かした体験活動を行いました

緑と自然の保全、身近な環境問題に目を向け、実感としてとらえる場を作り
ファミリーでの参加、ファミリー間の交流を通して自分を見つめ直す機会に

水沢地区の人口 総数……3,545人 男……1,709人 女……1,836人 世帯数……1,106世帯(17. 3. 1 現在)

発行・編集 水沢地区社会教育福祉推進協議会文化広報部 平成17年 3月

みんなで作る居場所づくり

最近核家族化が進み、子供の教育が問題になってきている中「ある地域でお年寄りと子供が集いお互いが刺激を受けいきいきしている」という話がありました。

「水沢でもこのような場所があったら楽しいのでは」との思いで『茶の実会』が「つとら」が発足しました。

一回目はすすきを使ってふくろうを作り、二回目はみんなで作ったおにまんじゅうをおしゃべりしながら食べました。三回目は「ものづくり」ではなく、お茶をのんでおしゃべりする日になりました。冬休みの宿題を友達とする子供たちや、家で作った竹とんぼをたくさん持ってきてくださったおじいさんおみえました。暖かくなったら飛ばして遊びたいですね。

将来は毎日開放し、特別なイベントをしなくてもふらつと立寄り、お茶を飲む人、おもちゃで遊ぶ子、情報交換ができる場所、時間を気にせず都合のいい時に出かけてくれる、気がねのいらぬ「みんなで作る居場所」として根づいてくれたらいいと思っています。



ふらつと立ち寄る事が出来る気楽な会

ふらつと立ち寄る事が出来る場所「茶の実の会」が「つとら」がオープンしたのを知ってますか？私は娘と母の三代で一回目からふらつとこのぞきに行っています。

ススキでふくろうを作ったり、お菓子の作り方を教えてもらったり、ゲームしたりおしゃべりしたり、強制的にやるのではなく自分の思いで時間を過ごし、帰る事が出来て、古里のお金のかからない喫茶店の様で気晴らしが出来ます。

小学生の娘もいつの間にか、おばあちゃん達に話しかける事が出来たり、一緒に物を作ったり自然に出来はじめています。

母は今までの新しい出会いで興味湧いてきたみたいで、物を作ったりおしゃべりしたりと楽しんでいます。農作業をしている母にとって一番気に入ったのは、その日の天気都合で出入りできる気軽さがいじみです。

みなさんもふらつとこのぞきしてみてください。



祖母・子ども・母とのふれ合い

はじめ、何も解らないまま娘に誘われてついでに来ました。フクロウ作りでした。同級生や知人が数人居り輪の中に入って行けましたし、身近な物でこんなふうになれるんだと感心しました。

オニ饅頭作りは自宅でも作ったりしますが、抹茶が入ったのは初めてで、子供たちも楽しそうにまた、出来たてホカホカを皆でおやつに食べ心も体も暖まった様でした。

会を重ねる毎に「今度は何をやるのかしら」とか、「誰がいるかしら」等楽しみます。

材料集めも私でもお手伝いが何かできるならと娘に聞くこともあります。

孫も参加しており、三人仲良く共通の話題があり楽しませて頂いております。一人でも多くの方に楽しさを知ってほしいですね。



4回目は貝殻・布・紙などを使っておひな様づくりをしました。



里山保全活動で「森のきこり」を体験しました。（四日市市少年自然の家にて）

とても楽しいです、ぜひきてね。

ふくろう作りは自分達でススキをとるのではなく、準備をしてくれる人がいるからいつでもすぐに作れました。

お金は一人百円だけです。それはジュース代だけで材料代は無しだからとても気楽で楽しい「茶の実の会」が「つとら」ぜひ一度きてみてはいかが？赤ちゃんがいる人は、すぐよこにあそぶところがあるから心配なくとも横を見ればだいじょうぶ。

表彰されました



伊藤 俊彦 氏

1月25日津市の
県総合文化セン
ターで開催され
た、伊勢茶振興大
会において、茶業
や生産技術の機械
化などに貢献された茶業功績者として
伊藤俊彦氏が表彰されました。

生活発表会

2月9日、水沢保育園で生活発表会
が開催されました。経験を劇遊びにと
り入れていもほりをする園児たちの笑
顔がかわいいですね。



地域ぐるみで子育て

(父の思い)



私の子どもは、今春水沢小学校に
入学します。入学まであとわずか、
学習机にランドセル。入学準備は徐々
に進んでいます。

今、父親として子どもの通学に不
安があります。近年全国各地で、子
どもを標的にした事件が発生してい
ます。田舎だけど直線距離が長く、
広い道路を大型のトラックが高速を
駆け抜けていような中、子どもを小
学校に「いつてらつしやい」と言っ
て送り出すことはたやすいものでは
ありません。少しでも危険を回避す
るために、何人か子どもたちの集う
ところまでは、送っていかなければ
ならないかと思っています。
帰りになると帰宅時間が違つてく
るので絶対に迎えにいけるといえな
いので何か対策を講じる必要がある
と考えています。

この地区には歩道があるところは
極わずかですから、道路際の除草な
ども自らした方が良くかと思ってい
ます。行政ばかりに頼っていたら
いつまでも待つても改善されません。

市街地では人がいっぱいいるけど、
誰も知らない人ばかりで、朝の挨拶
すら交わすことが減っているそう
です。水沢は人が少なく、寂しく静か
な町かもしれません。しかし、この
町の大人たちと子どもが挨拶や会話
を交わし、楽しそうな子どもたちの
声が聞こえて欲しいです。他人の子
どもでもいたずらをしたら叱られる
ことも必要かと思えます。最近学
校の先生でも上司に叱られると泣く
人もいます。上司の人が言う
には、たぶん他人に叱られることに
慣れてないからでしょうということ
です。

これからの時代、子どもたちはど
んどん水沢から街へ、世界へそして
宇宙に出て行くことでしょう。水沢
の人は、声がデカく、元気で、明る
いと言われるよう、町ぐるみで子ど
もたちを育ててほしいです。大人に
なつても水沢
に戻ってきた
い。そう思え
るような水沢、
元気な水沢、
創っていきま
しょう。



「ご寄付ありがとうございました」

水沢地区社会教育福祉推進協議会では、地区の方々から寄せられました寄付金を、社会を明るくする運動、町民運動会、地区文化祭、青少年の健全育成事業や地区の環境づくりなどに活用させていただいております。今後とも、「生活改善運動」にご協力いただきますようお願いいたします。平成十六年十月以降十七年二月末日までにご寄付いただきましたのは、次の方々です。

- 中川 春光様(水沢東町)
- 清水 稻男様(西條町)
- 森 利和様(水沢東町)
- 石崎 計様(水沢中谷町)
- 北谷 晴巳様(北谷町)
- 原 昭義様(三本松町)
- 中西 正宜様(水沢谷町)
- 清水 光子様(水沢東町)

編集後記

昭和五十五年十一月の第一号発行より数えて記念すべき第五十号になりました。少子高齢化時代をむかえ、世代間を超えた交流活動の姿を特集することができました。うれしい限りです。

お願い

水沢の素敵な写真・原稿・ご意見をお寄せ下さい。